

# 地域医療とその解決策

秩父市の取り組み

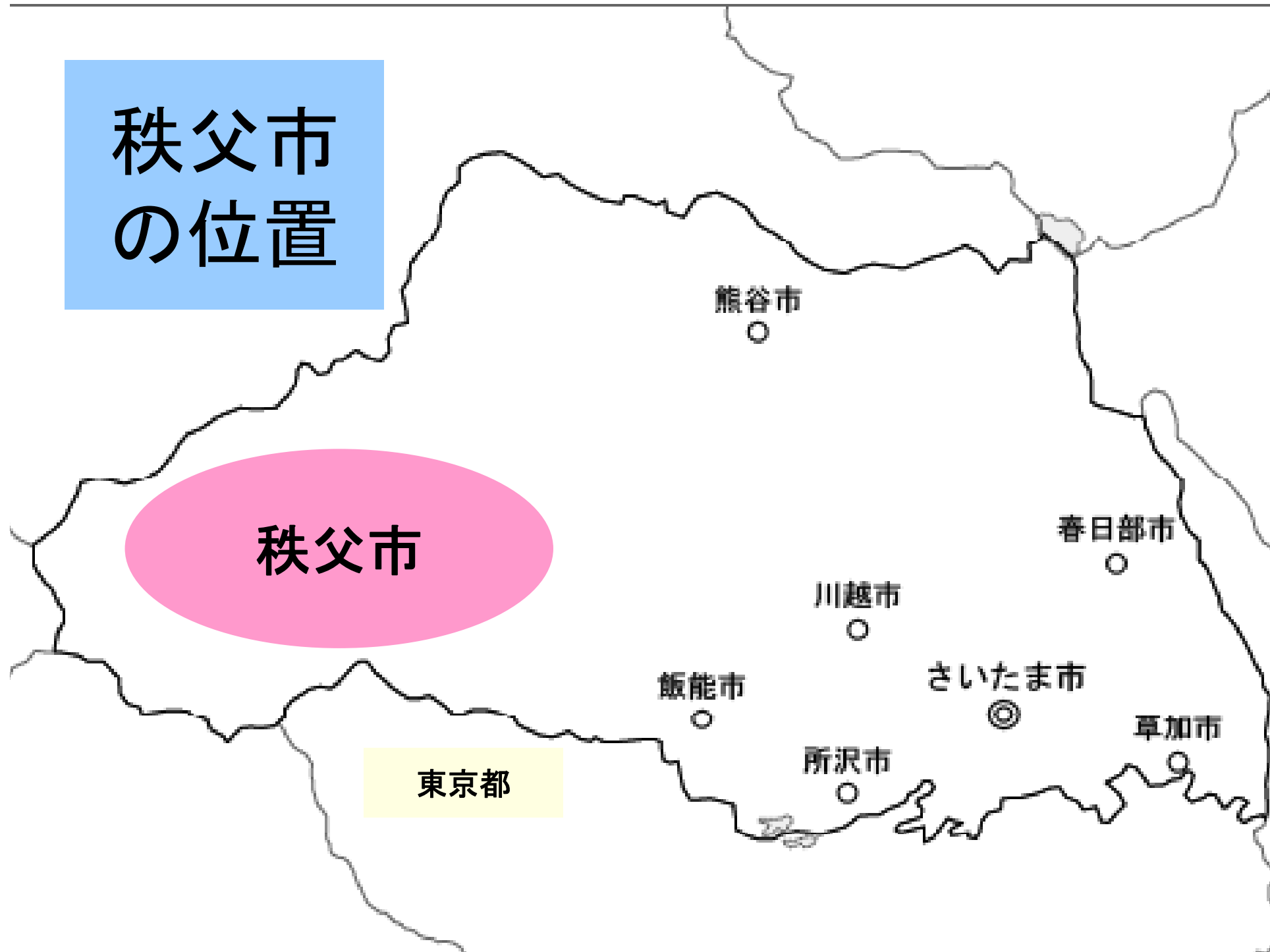
2008.11.15

秩父市長 栗原 稔



12月3日 秩父夜祭

# 秩父市の位置



秩父市

東京都

熊谷市

春日部市

川越市

飯能市

さいたま市

草加市

所沢市

# 秩父市の紹介

---

- 面積 約577km<sup>2</sup>(県面積の約15%)
- 人口 70,776人(2008.4.1現在)
- 65歳以上の人口 18,225人  
(高齢化率25.79%)

## 参考

秩父郡市の人口 115,043人  
(県人口7,116,183人)

秩父郡市の面積 約929km<sup>2</sup>(県面積の約25%)

# 医療を取り巻く地域の状況

- 山間地の広い面積に少ない人口  
(県の1/4面積 1/62の人口)
- 人口減少と進む高齢化
- 勤務医の減少  
新医師臨床研修制度
- 2次救急病院の減少  
輪番制 7病院→4病院に減少
- 地域に2つの公立病院  
秩父市立病院 (一般病棟165床)  
国保町立小鹿野中央病院(一般病棟45床  
療養病棟50床)

# 秩父市が行ってきたこと

---

- 市立病院開設 昭和41年7月(40床)

その後増改築を行い現在 内科・外科・泌尿器科・整形外科・脳神経外科・小児科・麻酔科の165床の一般病院

- 医師会立秩父看護専門学校設立に協力  
(平成10年4月 1学年定員40人)  
建設費補助金・運営費補助金の助成

■ 秩父市医学生等奨学金貸付制度の設立  
(平成19年4月)

将来、市立病院で勤務し地域医療貢献が条件

医学部入学時奨学金	1千万円以内
大学生・大学院生奨学金	月額40万円以内
研修医奨学金	月額30万円以内
全て借りると 65,200,000円	

借り入れた年数の2倍以上勤務した時、返還免除  
(免除時に 所得税が課税されるのが難点)

## ■ 交通弱者対策

大滝国民健康保険診療所の送迎バス

(1日1方向、1週で5方向)

高齢者等移送サービス 太田部地区

(会員制)

乗り合いタクシー(1日4便 500円)

お出かけ楽々バス(5,000円のバスカードのうち  
2,000円助成)

民間バス路線の変更(市立病院経由)

## ■ ドクターヘリ用ヘリポートの増設

---

山間地域であり山岳遭難対策及び秩父地域に高度救命救急病院がないため迅速な患者搬送に必要なためヘリポートの設置

市内に21カ所（秩父郡市内に37カ所）



## ■ 医師会との連携

---

平日夜間小児初期救急の取り組み

平成16年8月から実施

月曜日から金曜日まで 19時30分から

22時まで市立病院に医師会員の医師が勤務し、小児の医事救急患者を診察

(現在市立病院の常勤小児科医師が1人になり変則実施を余儀なくされている)

■ 健康福祉部内に地域医療対策課の新設  
(平成20年4月)

---

- 医師確保のため市立病院の連携大学病院や埼玉県医療整備課と連絡調整
- 地域医療の整備充実のため秩父郡市医師会や秩父保健所との連絡調整
- 市民に医療に関する情報の提供(広報活動)
- 医学生等奨学金貸付事務

- 定住自立圏構想の先行実施団体に総務省から選定される(平成20年10月 全国で22市・町)

## 取り組み内容

地域医療の強化、伝統芸術文化交流、農産物の増産等及び地産地消の推進等



## ■ 公立病院間の連携

秩父市立病院と国保町立小鹿野中央病院間で  
医師の相互派遣の実施

(平成19年から)

医師不足の診療科において手術等の際、相互支  
援のため医師の派遣

常勤医師数	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
秩父市立病院	18	18	14	
小鹿野中央病院	9	8	7	

## ■ 市立病院と市民との交流

---

市立病院長の出前講座

(老人クラブ・町内団体への講演)

市立病院で受付ボランティア

病院看護師によるAED講習会の実施

# 課題と今後の対策

---

- 医師の確保
- 救急医療の確保
- 医療連携による地域医療の充実

# 医師の確保

---

- 給与を含めた処遇改善
- 十分研修できる環境整備  
(患者さんからだけでなく医師からも選ばれる市立病院作り)
- 院内保育室の整備
- 医師の勤務状況を住民に理解していただく広報活動

# 救急医療の確保

- 救急病院が減少する中で  
医師会と連携し2次救急を市立病院で担当していく

1次救急は開業医の先生で可能な範囲で担っていただく体制を作っていく

公立病院間で役割分担を行い医師の集約化を進めていく



# 医療連携による地域医療の充実

---

- 秩父地域は1時間以内に高度救命救急医療を提供する病院が存在する

そのため

地域内では一定レベルの完結型医療が提供できるように市立病院が中核となり、医師会員の医療機関、公立病院間で連携を深め安心・安全を提供していく

# まとめ 今後を考えると

---

- 医師不足 診療報酬の削減
- 診療体制維持の厳しさ
- 公立病院は救急医療 高度医療 不採算部門を担当することを期待されている
- 地方にあっては公立病院がないと地域医療を支えられない
- 市からの繰り出し金の持ち出し
- 公立病院を抱える自治体の厳しい財政事情
- 一自治体の対策では限界
- 国、県、などから何らかの支援策が必要

終

12月3日は秩父夜祭です

